

(上斜筋麻痺患者における上下融像域の比較) に関する研究のお知らせ

帝京大学医学部附属病院では以下の研究を行います。

本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

研究期間: (2021年 7月 21日) ~ 2023年 3月 31日

[研究課題]

上斜筋麻痺患者における上下融像域の比較

[研究目的]

- ・上斜筋麻痺は先天性・後天性・発症時期が不明な特発性に分類できます。先天上斜筋麻痺は、後天上斜筋麻痺より上下の融像域(両眼で見る力)が広いとの報告があります。プリズムを使用した上斜筋麻痺の上下融像幅の研究は過去にも報告されていますが、大型弱視鏡を用いた過去の報告は多くありません。
- ・大型弱視鏡では、水平方向だけでなく、上下方向にも融像域を測定することが可能で、先天上斜筋麻痺特有の広い融像域を証明できると考えています。今回は、発症時期が明確な上斜筋麻痺を先天性と後天性に分類し、上下の融像域を測定し、先天・後天の上下融像幅の平均を知ることで、発症時期が不明な特発性上斜筋麻痺の発症時期の予測が可能となると考えています。
- ・上斜筋麻痺は先天性、後天性、特発性の分類が可能となることで術後の両眼視機能の予測、斜視手術の定量に有用になると思われます。

[研究意義]

発症時期が不明な特発性上斜筋麻痺の先天性、後天性の予測が可能となることで術後の両眼視機能の予測、斜視手術の定量に有用になると思われます。

[対象・研究方法]

- ・後ろ向き観察研究
- ・2017年4月1日~2021年3月31日に帝京大学医学部附属病院を受診した上斜筋麻痺と診断された患者さんで、大型弱視鏡にて測定した上下の融像幅を検討します。大型弱視鏡にて自覚的に答えができない患者さん、屈折異常以外眼疾患のない患者さんを対象とします。観察項目は、頭位異常の有無や発症時期の問診、視診、眼球運動検査、大型弱視鏡の検査結果を後ろ向きに検討します。

[研究機関名]

帝京大学医学部附属病院 眼科外来

[個人情報の取り扱い]

年齢、性別、検査結果のみとし、すべて匿名で処理します。研究責任者は研究終了後に保管対象の記録類一式を封緘に詰め、帝京大学倫理委員会事務局に提出します。

対象となる患者様で、ご自身の検査結果などの研究への使用をご承諾いただけない場合や、研究について

てより詳しい内容をお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。

ご協力よろしくお願い申し上げます。

問 い 合 わ せ 先

研究責任者： 佐々木 梢

所属： 帝京大学医学部附属病院 診療技術部 眼科出向

住所： TEL： 03-3964-1211 （代表）〔内線 30327 〕